

今年度は「教育・文化スポーツ常任委員会」の委員長として、「教育人材の確保と育成」などに取り組んでいます。



常任委員会の県内調査で教育総合センターを視察し、不登校等の相談体制について意見交換

滋賀県のコロナ警戒レベルも10月14日「1」に引き下げられ、場面に応じたマスクの着用など基本的な感染対策を講じながら少しずつ日常が戻りつつあります。しかし、陽性者判明数は高止まりが続いており、インフルエンザとの同時流行への警戒など、まだまだ余談は許せない状況でもあります。オミクロン対応のワクチン接種推進や検査相談体制の整備など、「命を守り」「不安を少しでも和らげる」政策を、引き続きしっかりと進めてまいります。

Topics

- 7月・9月定例会義報告
- 常任委員会報告
- 地域の行事も少しずつ再開
- 「いぬ・ねこ・にんげん しあわせフェスタ」開催!!

小川 やすえ

滋賀県議会議員

プロフィール

- 徳島県鳴門市出身 ● 岡山大学文学部卒業 ● 1996年滋賀へ ● 1997年子育てや女性の一步を応援する「びいめ〜る企画室」創設。情報紙発行、コミュニティカフェ運営等に携わる
- 2011年〜2014年守山市議会議員
- 2019年〜滋賀県議会議員

9月例会議報告



9月20日〜10月14日開催され豪雨災害復旧や物価高対策を含む補正予算31億円余等が可決されました。

滋賀県議会ホームページの録画でもご覧頂けます。



県立病院の経営形態のあり方について



現在、地方独立行政法人化（独法化）も選択肢とした県立病院の経営形態のあり方について検討が進んでいますが、半年間・わずか4回の専門部会で取りまとめるという過程も含めて唐突感や拙速感に否めず、県民に大きな不安を与えています。地元市である守山市から「安易に独法化の結論に至るのではなく、長期的かつ安定的な視点から十分に議論を尽くすこと」と県に要望が出され、市議会で同様の意見書が全会一致で可決されました。

11月には答申が確定し、年内に方向性が決まるということで、これまでの議論の検証をすべく質問いたしました。

● 一般的に独法化すると定数条例の適用ははずれ、自由に増員を図れることが大きなメリットと言われるが、本県の現状に照らし合わせて、このメリットは有効に作用すると考えるのか。

病院事業庁長 ▼ 本県では、毎年度の定数条例の改正の中で必要数を議会に諮りこれまで着実に増員が図れていること、また、ほぼ全ての職種で採用選考の権限が委任されていることから、これらの点に関して、**独法の効果はさほど大きくないもの**と考える。



大津市民病院の医師の大量辞職の例のように、独法化が人材確保につながらないどころか、**行政としてのガバナンスが効かなくなるリスク**もあります。ここは大きなポイントです。

● 議会の議決を経ずに理事会の承認のみで予算執行できる迅速性と柔軟性も独法化のメリットに挙げられるが、**現行形態でも、裁量権の拡大などで一定の効果を得られることも可能**なのでは

病院事業庁長 ▼ 平成18年度の地方公営企業法全部適用に伴い既に、組織改編や人事配置、採用手当の創設などが独自の判断で行えるようになっており、さらなる裁量拡大の余地は限られているが、**運用面で、裁量を十分活かしている**が、**改善ができませんか**検討していく。

● 独法化のデメリットとして、移行準備や独自システム構築に人員や経費を要するといった点が挙げられるが、**独法化した場合、事務経費はどれくらいと見込むのか。**

病院事業庁長 ▼ 独法化する場合独自システムの構築や、固定資産台帳の整備など、人件費も含めて多額の準備経費を要すると聞いているが、**どういった方法で実施するか**によって必要経費も変わってくるため、**詳細な検討**を行っている。



● 全国地方独立行政法人病院協議会が行ったアンケートでは、独法化に伴い6割の法人がデメリットもあったと回答しており、その多くが「業務量の増大」です。移行準備に費用が高みすぎたと答えた法人もあり、今回の経営形態の検討を始めた大きな要因は資金不足ということを考えると、この点もしっかり明らかにして議論すべきではないかと考えます。

● 現在、政策医療や不採算部門に充てるべく、国の基準に基づき一般会計から病院への繰出しを行っており、その額は令和3年度決算では40億円余にのぼっている。独法化された場合の扱いはどうなるのか

病院事業庁長 ▼ 独法化する場合であっても、現在と同様に、総務省の繰出基準の項目に沿って算定することとなるため、金額に差が生じるといったことはない

● つまり、**国費も含むこの繰出し金は、公立病院として、民間では十分対応できない医療を支えるための投資で、経営形態に関わらず必要なもの**ということですよ。

● これまでの議論を踏まえて、**拙速に独法化に走るのではなく、まずは現行制度の中でやれることにしっかりと取り組むべきだと考える**が見解を伺う。

病院事業庁長 ▼ 当初から独法化ありきで考えていたわけではない。進め方として、まず選肢である「地方独立行政法人」と「指定管理者制度」の効果と課題を検証し、その上で、**現行の経営形態との比較、また、現行形態を継続する場合の経営改善の取組を検討すること**としていた。独法化のメリット・デメリットも一定整理できたことから、**現行の全部適用での経営改善の取組について議論を深めている**。今後、2回の有識者会議と、県民から意見募集も予定しており、**それらも踏まえて方針を決定する**。

● どのような経営形態であっても、**必要なのは、明確なビジョン、関係者全体での意識の共有、必要な投資、課題解決への連帯、県民の理解**だと思いが、**知事の所見を伺う**。

知事 ▼ 私も認識は同じだ。県立3病院の政策医療の機能をより高めることが、目指すべき方向であり、**県民が期待されていること**でもある。これまでも各病院では、**鋭意努力してきたが、実際には経営の裁量という面で課題や制約があり、それらをクリアするためにはどういった経営形態が望ましいか**ということを正に今、議論・検討している。経営形態の見直しは、あくまで手段であり、**目的は県立病院として、県民の皆さんが望む医療を持続的に提供すること**だ。その点を常に意識しながら県民の負託に応えられる県立病院を目指していきたい。

7月定例会議（令和4年7月21日～8月12日）

子どもの集団への コロナ対策と検査について



当時、全国的に新規陽性者が過去最多を大きく更新し続けており、本当に県民の安心が担保できているのか、制度の間で困っている人はいないのか、県としてもっとできることはないのかという観点で質問しました。保育所や放課後児童クラブで陽性者が出た場合の休園の「短く・小さく」は本当に進んでいるのか、代替保育など保護者へのサポートはどうなっているのか、高齢者施設や福祉施設従事者の検査の状況について問い、また、発熱外来でPCR検査を外注する際に曜日によってタイムラグが生じる問題などを指摘し、抗原検査キットの併用を訴え、ちよつど国の方針とも合致し、その後大きく改善されました。



ひとと動物の 豊かな関わりのために



会派代表質問の動物愛護の項で、「致死処分をなくす滋賀をつくる想い」に変わりはない」という知事の考えを確認し、その実現に向けた施策を提案しました。

●来年度改定を迎える滋賀県動物愛護管理推進計画に、しっかりと目標値を設定すべきでは

健康医療福祉部長 ▼収容数の削減と併せて、譲渡適性のある犬猫が確実に譲渡されている「実質的な致死処分ゼロ」など、致死処分が減っ

ていることを実感できる目標を設定していく
●これから、ますます高齢化、独居化が進むことが確実な今、高齢の方のペットの問題について、なんらかの対策が必要。

健康医療福祉部長 ▼大切なペットを守るため、預かり先などの備えについて高齢者へ確実に啓発する必要があると考えており、滋賀県介護支援専門員連絡協議会に機会をいただき、事前の備えの重要性などについて福祉関係者へ説明を行っている

●犬・猫の保護団体のほとんどは、「終生飼養」ができない可能性があるという理由で、シニア世代への譲渡は行っていない。しかし高齢の方にこそ、また、一人暮らしの方にこそ、パートナーとしてのペットの果たす役割は大きいと言える。齢を経ても、人と動物が豊かに関わり続けられる地域社会を目指して、シニア猫の預かりボランティア制度や、マッチングシステム、後見人登録制度など、行政としてなんらかの仕組み作りができないか

知事 ▼私も施策の必要性や可能性を感じている。私事で恐縮だが、3人の子供が巣立って連れ合いと2人で住んでいると、犬か猫と一緒に暮らすかっていう話をしたりするが、終生飼養できるかなということも含めて色々考える。全国的には、民間団体による「高齢者を対象とした永年預かり」で「子猫の育成のための高齢者による一時預かり」など、終生飼養が難しい高齢者の方でもペットと関われるような取り組みが始まっていると認識している。今後、県内でも、そうした取組の相談が増えることが予想され、ひとと動物が豊かに関わり合う社会に向けては、高齢者が安心してペットを飼育でき、飼育されるペットが健やかにその生涯を全うできることが重要だと考えている。そのために必要となる仕組みなど今後の施策の可能性を、高齢福祉や地域福祉の関係者とも意見交換しながら、高齢者がペットをパートナーとして、そのペットが最期まで適正に飼養される「ひとと動物も豊かな暮らし」が実現できるよう考え、やれることを実施できるよう取り組みを進めていきたい。

行財政・新型コロナウイルス感染症等 危機管理対策特別委員会

陽性者数下げ止まりで、第8波やインフルエンザとの同時流行が危惧される中、検査・医療体制、陽性者や自宅待機者へのサポートなど、本当に県民の安心に繋がっているのかしっかりと、しっかりチェックして参ります。
また、気候変動による災害が多発する中、危機管理体制の拡充にも取り組みます。



彦根地方気象台を視察。6月からスタートした「線状降水帯」予報などの状況を調査しました。

教育・文化スポーツ常任委員会

今年度は常任委員長として、重点審議事項の決定や、委員会運営、本会議での委員長報告などを行っています。
これまで一議員として取り組んできた、教員の働き方改革も含む教育人材の確保と育成について、しっかりと施策として進めていけるよう頑張ります。
また、国スポ・障スポに向けて大型公共事業が進む中で、希望ヶ丘文化公園など旧来の施設のあり方も課題となっています。公の役割を確保しつつ民間活力導入も視野に、より良い方向を探っていきたいと考えます。



国スポ・障スポに向け希望ヶ丘文化公園に整備されたラグビー場を視察。

地域の行事も 少しずつ再開



季節外れの10日に出現【ハイケボタル成虫】生きて光っているのが見られます。「おまがりぼたるを守る会」活動展示コーナーへ、ぜひお越し下さい。
場所：森づくりセンター内

大曲でハイケボタルの保存活動をされている団体の方の展示に感動。

速野学区民のつどい、守山学区民のつどいでご挨拶させていただき、地域の皆様から様々なお話を伺いました。

「火事だー！」と叫んで消火活動。地元自治会での防災訓練が活かされます。



お箸で大豆掴みに挑戦！見事「達人」!!



～ふれてみよう、保護犬・猫との豊かな暮らし、新しい家族のかたち～

いぬ・ねこ・にんげん しあわせフェスタ

11/26(土)・27(日)
11:00～15:00
えきまちテラス長浜 (JR長浜駅前)

皆様からご協力いただいたふるさと納税も活用し、県主催で譲渡会もある動物愛護のイベントが開催されます。ぜひお出かけください!!



Event poster for 'いぬ・ねこ・にんげん しあわせフェスタ' with details on dates, times, and activities like dog/cat adoption and pet care workshops.